

平成 30 年 8 月 15 日
地震火山部

口永良部島の噴火警戒レベルを 4（避難準備）へ引上げ

本日（15日）10時30分に口永良部島の噴火警戒レベルを4（避難準備）に引き上げました。新岳火口から概ね3キロメートルの範囲の居住地域では、**厳重な警戒（避難準備等の対応）**をしてください。

口永良部島では、本日（15日）00時頃から火山性地震が増加しています。火山性地震は、2015年5月の噴火前に発生した場所と同じ場所と推定され、今後、火山活動が更に高まる可能性があることから、本日10時30分に口永良部島に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から4（避難準備）に引き上げました。

新岳火口から概ね3kmの範囲の居住地域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に**厳重な警戒（避難準備等の対応）**をしてください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

問合せ先：地震火山部 火山課 担当 長谷川

電話 03-3212-8341（内線 4538） FAX 03-3212-3648

火山名 口永良部島 噴火警報（居住地域）

平成30年8月15日10時30分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し）＊ ＊

<口永良部島に噴火警報（噴火警戒レベル4、避難準備）を発表>

新岳火口から概ね3kmの範囲の居住地域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）をしてください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から4（避難準備）に引上げ>

＊ ＊（本文）＊ ＊

1．火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、本日（15日）00時頃から火山性地震が増加しており、10時までで26回発生しています。これまでの火山性地震の震源は、新岳火口付近のごく浅い場所でしたが、本日の火山性地震は新岳の南西山麓付近の深さ約5kmと推定され、地震の規模は、最大でマグニチュード1.9（速報値）とやや大きなものでした。

この火山性地震の震源は2015年5月の噴火前に発生した地震と同じ場所であると推定され、今後、火山活動が更に高まる可能性があります。

2．対象市町村等

以下の市町村では、当該居住地域で避難などの厳重な警戒をしてください

。

鹿児島県：屋久島町

3．防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）をしてください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

口永良部島の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

噴火警報等で発表する 噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



口永良部島 2015年7月24日に東側上空から撮影
九州地方整備局の協力による

口永良部島 噴火警戒レベルに対応した規制範囲



この図は、国土地理院『地理院地図』を使用して作成しています。

● 噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難。

レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域での避難準備。要配慮者は避難等。

レベル3（入山規制）：火口から概ね2km以内の立入禁止 ○ の範囲内。

レベル2（火口周辺規制）：火口から概ね1km以内（西側は概ね2km以内）の立入禁止 ○ の範囲内。

レベル1（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。

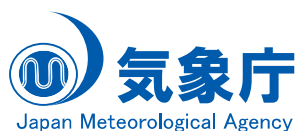
この図は、口永良部島火山防災協議会と調整して作成しています。

各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については鹿児島県及び屋久島町にお問い合わせください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 新岳火口
- : 居住区域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所



本冊子は、植物油インクを使用しています。



福岡管区气象台地域火山監視・警報センター

TEL: 092-725-3606 <https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>

鹿児島地方气象台 TEL: 099-250-9916

<https://www.jma-net.go.jp/kagoshima/>

口永良部島火山防災連絡事務所 TEL: 0997-49-4531

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/rovdm/Kuchierabujima_rovdm/Kuchierabujima_rovdm.html

問い合わせ先



口永良部島 2015年7月24日に南西側上空から撮影九州地方整備局の協力による

口永良部島の噴火警戒レベル

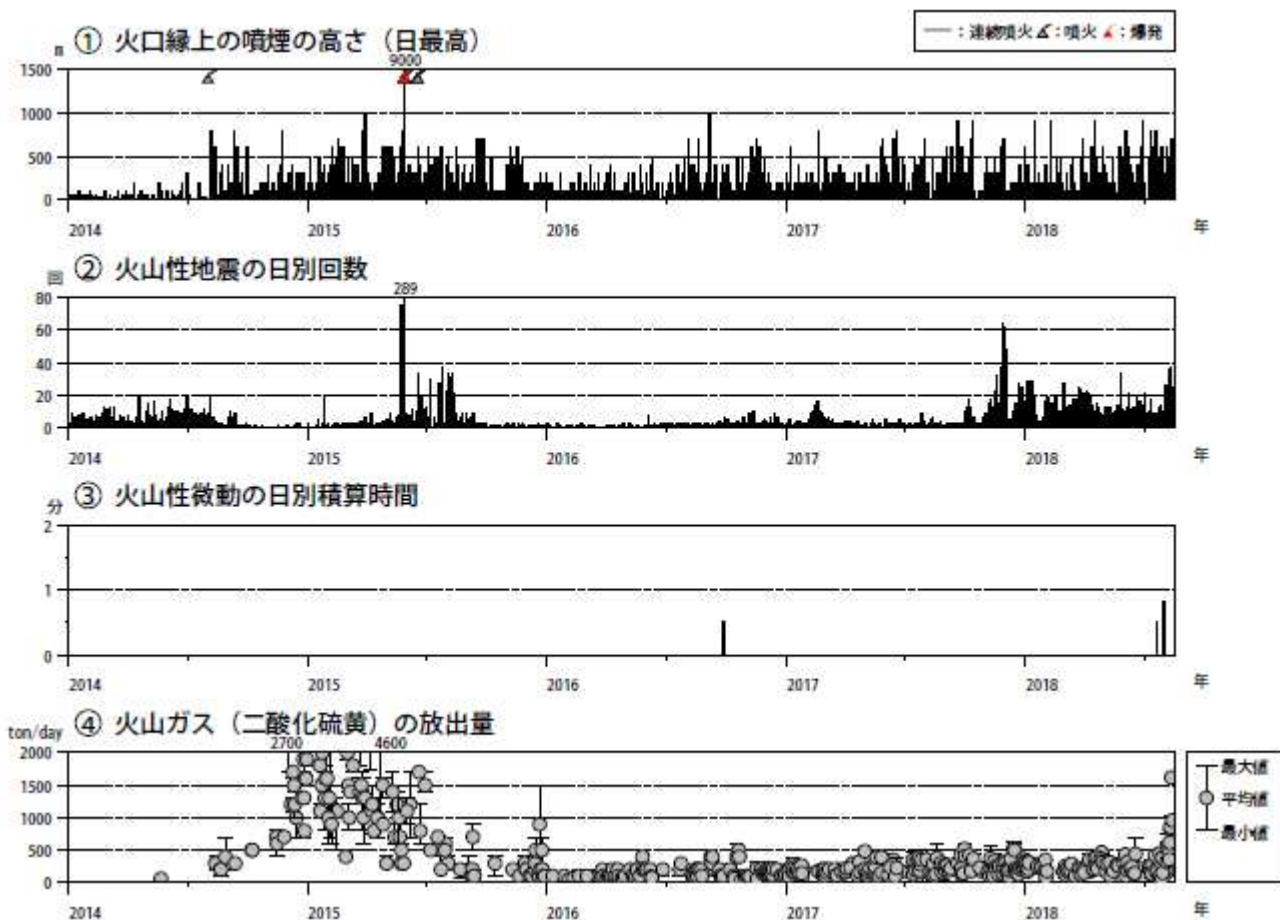
種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別 警報	噴火警報 (居住地域)	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	大きな噴石や火砕流、溶岩流が居住地域に到達するような噴火の発生が切迫している。 2015年5月噴火の事例 噴火の6日前：火山活動の高まりがみられる中で、島内の浅い場所で体に感じる地震が発生 噴火が発生し、大きな噴石や火砕流、溶岩流が居住地域に到達。 過去事例 2015年5月：火砕流（火砕サージ）が新岳火口の南西側から北西側にかけての海岸に到達 1966年11月：噴石が新岳火口から約3.5kmまで飛散
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。	大きな噴石や火砕流、溶岩流が居住地域に到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 1931年4月、1966年11月の噴火前：島内の浅い場所で体に感じる地震が発生
警報	噴火警報 (火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等。登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。	火口から概ね2km以内に大きな噴石の飛散や火砕流が流下するような噴火が予想される。 2014年8月噴火の事例 2014年6月10日：火山性地震の増加 噴火が発生し、火口から概ね2km以内に大きな噴石の飛散や火砕流が流下。 過去事例 2014年8月：火砕流（火砕サージ）が新岳火口の西側約2kmに到達 1933年12月：噴石が新岳火口から七釜集落まで飛散
			2 (火口周辺規制)	火口周辺	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	火山活動は静穏。状況により火口内に影響する程度の噴出の可能性あり。

注）ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。

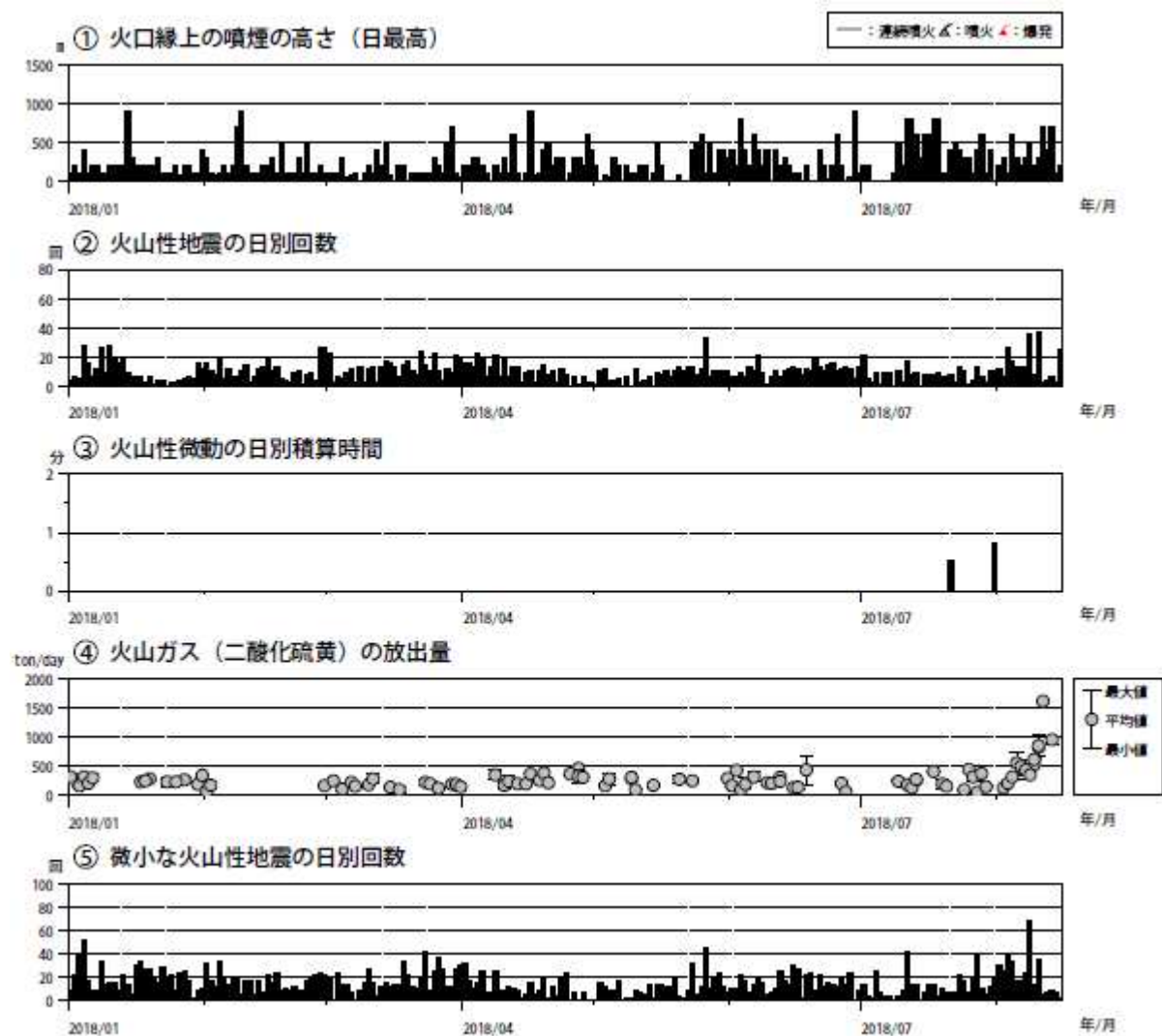
各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については鹿児島県及び屋久島町にお問い合わせください。
最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

口永良部島 火山活動經過圖、震源分布圖等

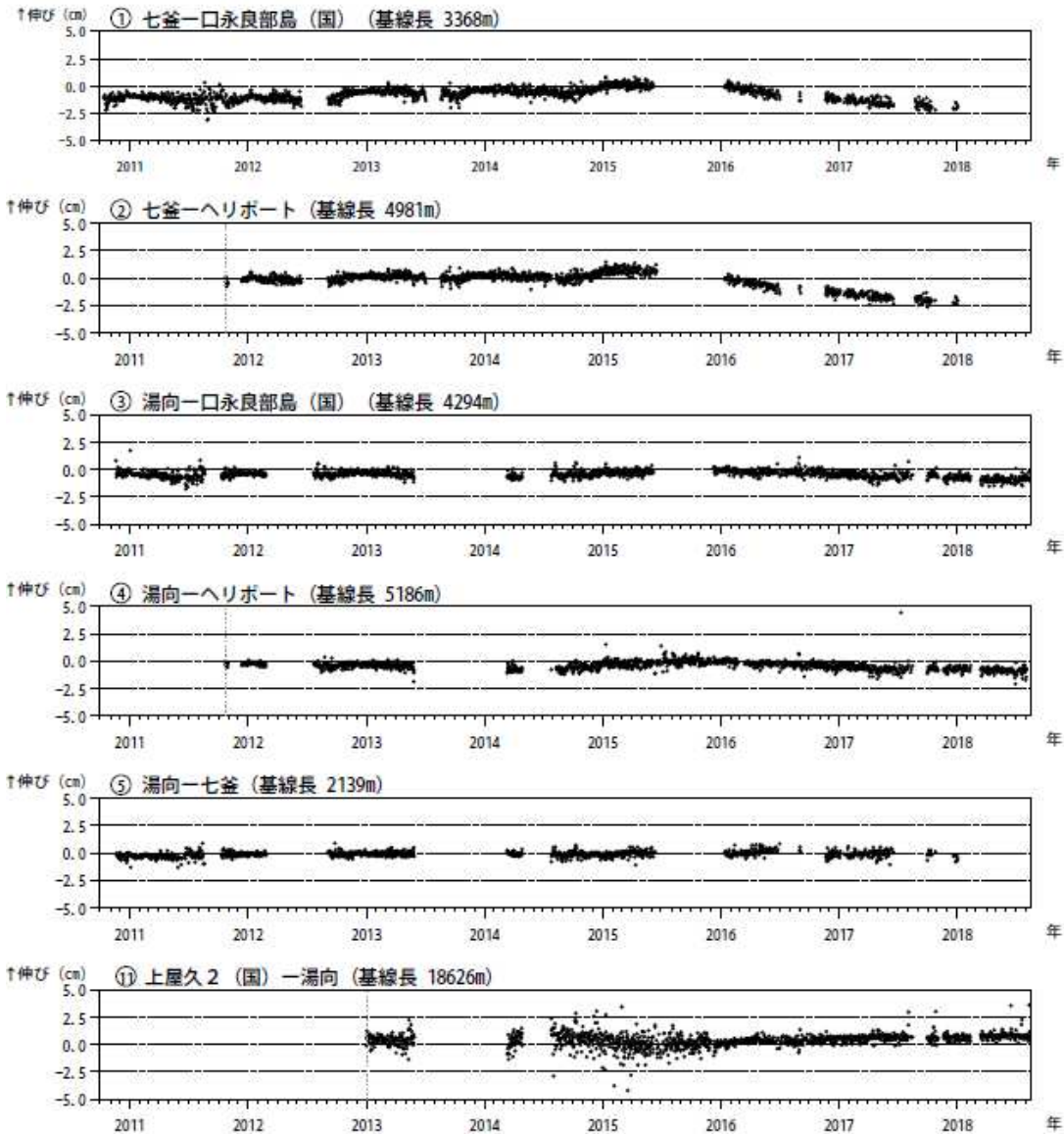
【活動経過図(2014年-2018年)】



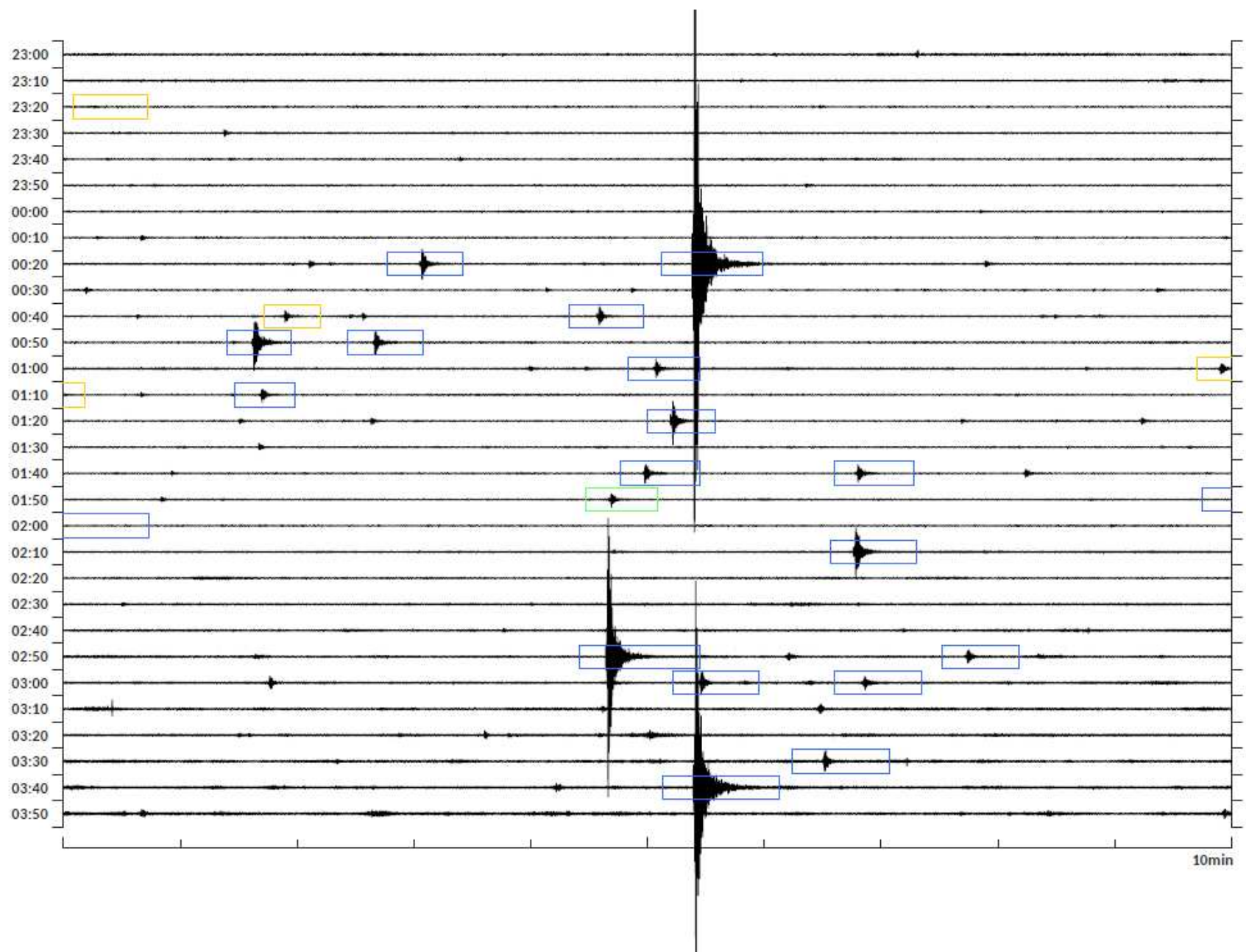
【活動経過図(2018年)】



【GNSS(2010年-2018年)】



【地震波形(2018年08月14日23時~08時15日04時)】



【震源分布図(2010年-2018年8月15日)】

